

## 宮津地区の現状と課題について

# 1. 現状把握・課題整理

## (1) 統計的把握による課題の整理

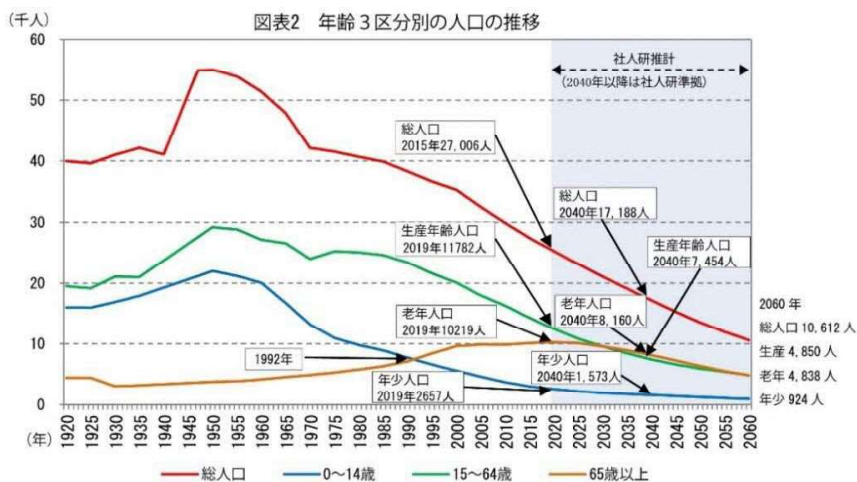
### 1) 人口構造

#### 2031年には生産年齢人口と老年人口がほぼ同じ割合となる。

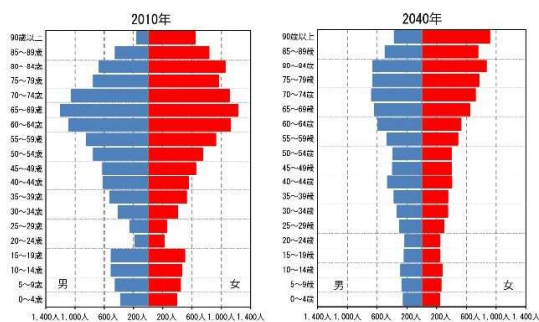
上天草市の人口は、26,423人（男性：12,557人、女性：13,866人）、世帯数11,523世帯〔令和2年5月31日〕（上天草市HP参照）となっている。総人口は、年々減少を続けており、社会減の継続と自然減の拡大が人口減少の要因となっている。

2031年には生産年齢人口（15～64歳）と老年人口（65歳以上）がほぼ同じ割合となり、2040年には、年少人口1,573人（割合9.1%）、生産年齢人口7,454人（割合43.4%）、老年人口8,160人（割合47.5%）となり、半数近くが65歳以上になるとされている。

宮津地区においては、住宅も多く、既存老人福祉センターの立地やスパ・タラソ上天草などの健康促進施設が存在しており、高齢者が生き生きと活躍できる場所となっている。



男女別5歳階級別人口構成（人口ピラミッド）比較



2019年は、国勢調査（総務省）より作成  
2040年は、日本の地域別将来推計人口（社人研）より作成

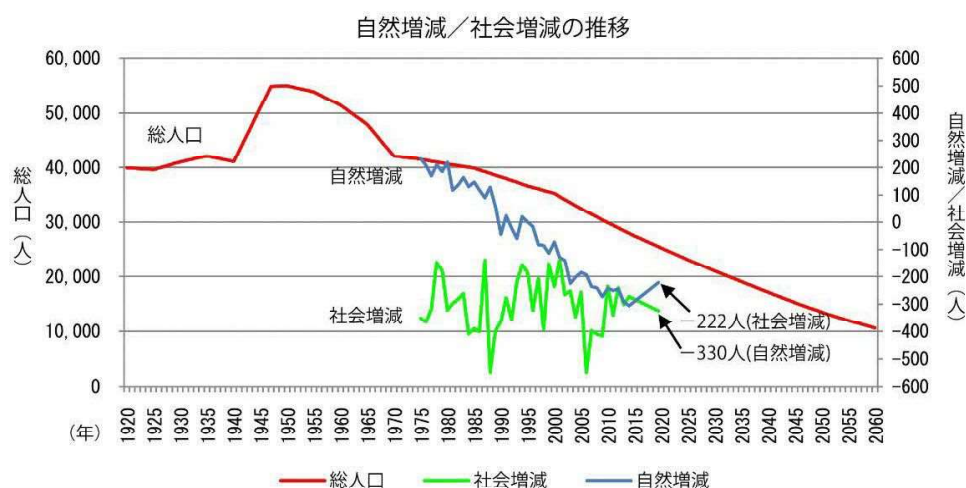
【参考：ひと・まち・しごと創成本部 人口ビジョン、R元年度熊本県人口動態】

## 2) 人口動態（自然増減及び社会増減）の状況

自然増減は拡大が続き、社会増減の減少は横ばいだが今後も続く。

上天草市の総人口の減少が比較的緩やかであった1975年～2014年までの人口動態の状況をみると、1975年～1989年までの間は社会減が大きく、1990年～1996年にかけては自然増から自然減に転じている。

自然増減では1990年から1996年の間に自然減となりその後も拡大が続いている。社会増減では各年にばらつきはあるものの、平均約-300人と横ばいで推移している。

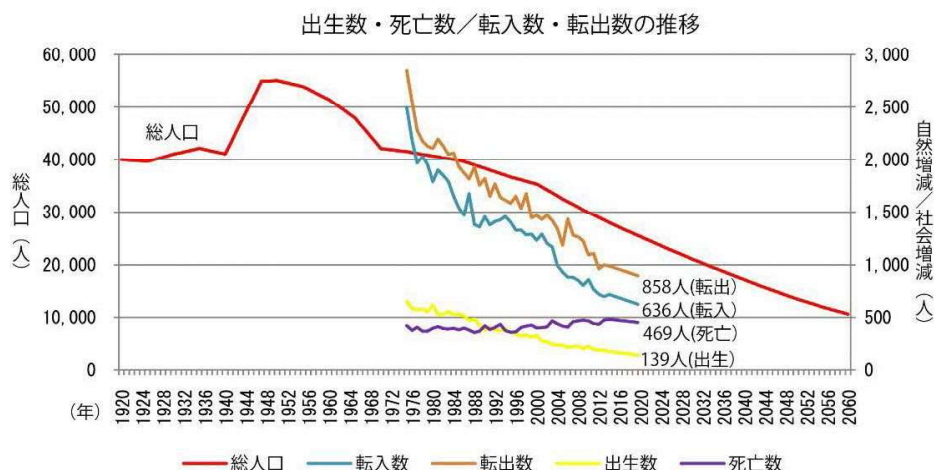


【参考：ひと・まち・しごと創成本部 人口ビジョン、R元年度熊本県人口】

### 出生率の低下、転入数より転出数が多い

近年では出生数が年々減少を続けており、逆に死亡数は年々増加している。

社会減が2006年に-549人となった後、2014年では-272人と減少を抑えることはできているが、今後も社会減の状況が続くことが考えられる。



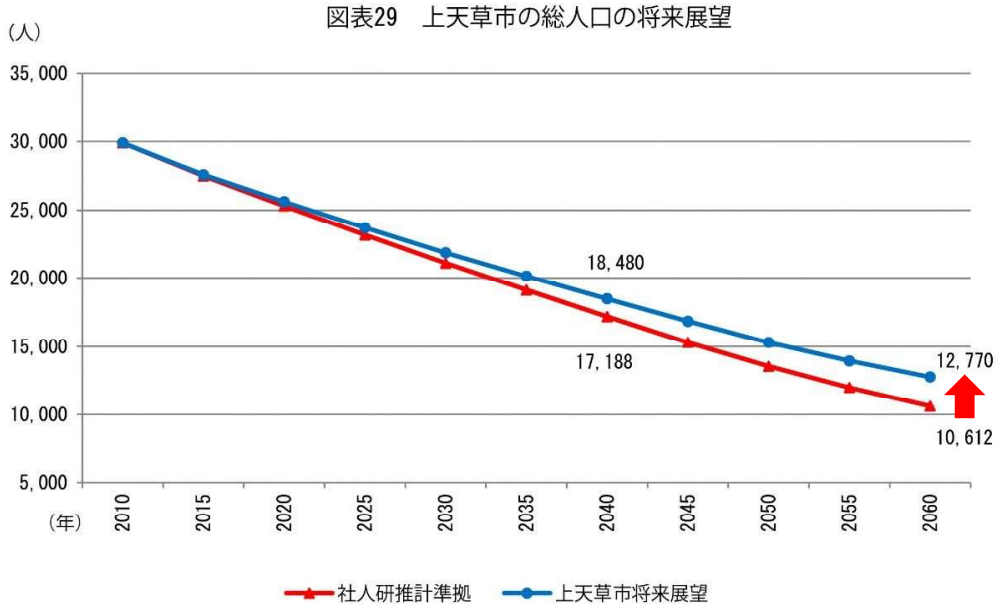
熊本県人口動態調査により作成

【参考：ひと・まち・しごと創成本部 人口ビジョン、R元年度熊本県人口】

### 3) 上天草市人口ビジョン

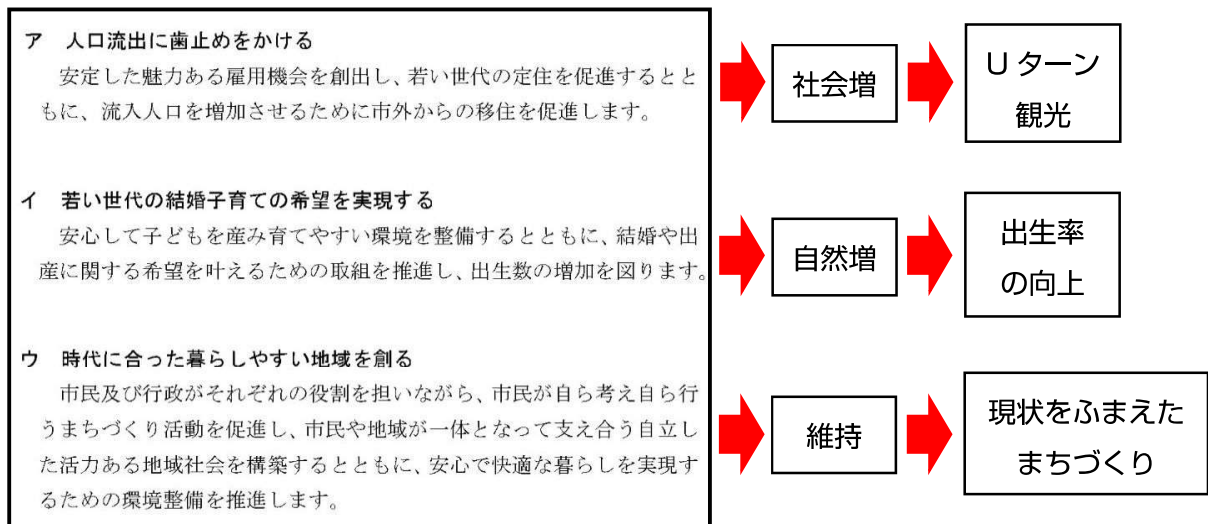
#### 社人研推準拠と比較し 2060 年で 2,158 人を抑制

上天草市人口ビジョンでは、目指すべき将来展望として、2040 年に 18,480 人、2060 年の人口には 12,770 人となり、社人研推計準拠の 10,612 人に対し 2,158 人 (20.3%) の減少を目指している。



【出典：ひと・まち・しごと創成本部 地方ビジョン】

目指すべき将来の方向として「人口流出に歯止めをかける」、「若い世代の結婚子育ての希望を実現する」、「時代に合った暮らしやすい地域を創る」としている。「人口流出に歯止めをかける」は、Uターンや観光を通して社会増を目指す、「若い世代の結婚子育ての希望を実現する」は、出生率を向上し自然増を目指す、「時代に合った暮らしやすい地域をつくる」は、現状をふまえたまちづくりで現状維持を目指すことと捉えることができる。

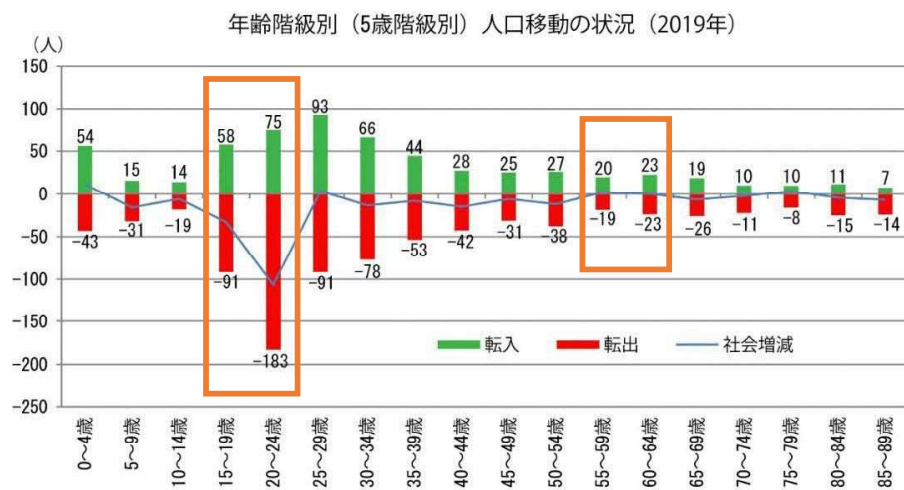


【出典：ひと・まち・しごと創成本部 地方ビジョン】

#### 4) 年齢階級別人口移動の状況

##### 15～54歳の働き盛りの合計は転入より転出が多い

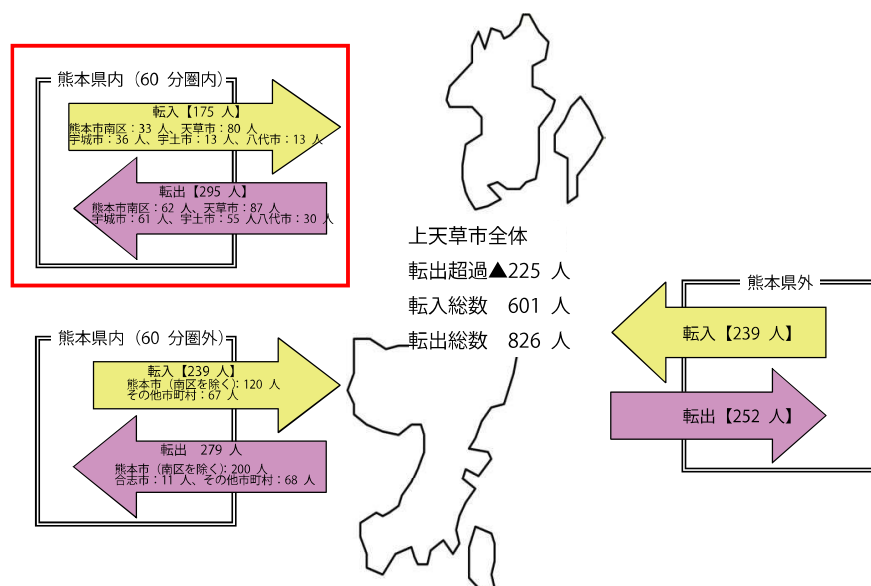
2019年の年齢階級別の人口移動の状況は、15歳～24歳までの転出超過が大きい。これは進学や就職のための市外への転出が原因と考えられる。15歳～54歳までは基本的に転入より転出が多いが、25～29歳は転出より転入が多く、2013年のデータ（25～29歳の転入数89人、転出数119人）に比べ大きく改善がみられる。しかし、現状では、働き盛り（15歳以上）が戻ってきていないことがわかる。55歳～64歳までの年齢階級においては県外からの転入もあり、退職に伴うUターンや移住があったものと考えられる。



【参考：令和元年住民基本台帳人口移動報告】

##### 60分圏内の転出が一番多い

転出先は、県外や熊本県（60分圏外）より熊本県内（60分圏内）が多いことがわかり、全体の36%、熊本県内で考えれば51%の人が60分圏内の転出となっている。



【参考：住民基本台帳人口移動報告 2019年（令和元年）】

## 5) 交通動向

### 通勤通学手段の6割以上は自家用車利用

上天草市の通勤通学流動は平成17年から平成27年で増加傾向にある。また、通勤通学手段は熊本市内を除く地域では6割以上が自家用車利用であり日常生活における自動車依存が高いことがうかがえる。しかし、57号線や266号線は渋滞等で交通環境の改善点が多い。そのため、熊本天草幹線道路の整備計画に基づき整備が進められている。



▲宇城・天草地域⇄熊本市間の通勤通学流動の変化(H27年/H17年)

資料:国勢調査(H17, H27)

△熊本県庁、熊本県立総合研究機構



宇城地域:宇城市、宇土市 天草地域:天草市、上天草市、苓北町

▲宇城・天草地域⇄熊本市間の通勤通学流動の変化

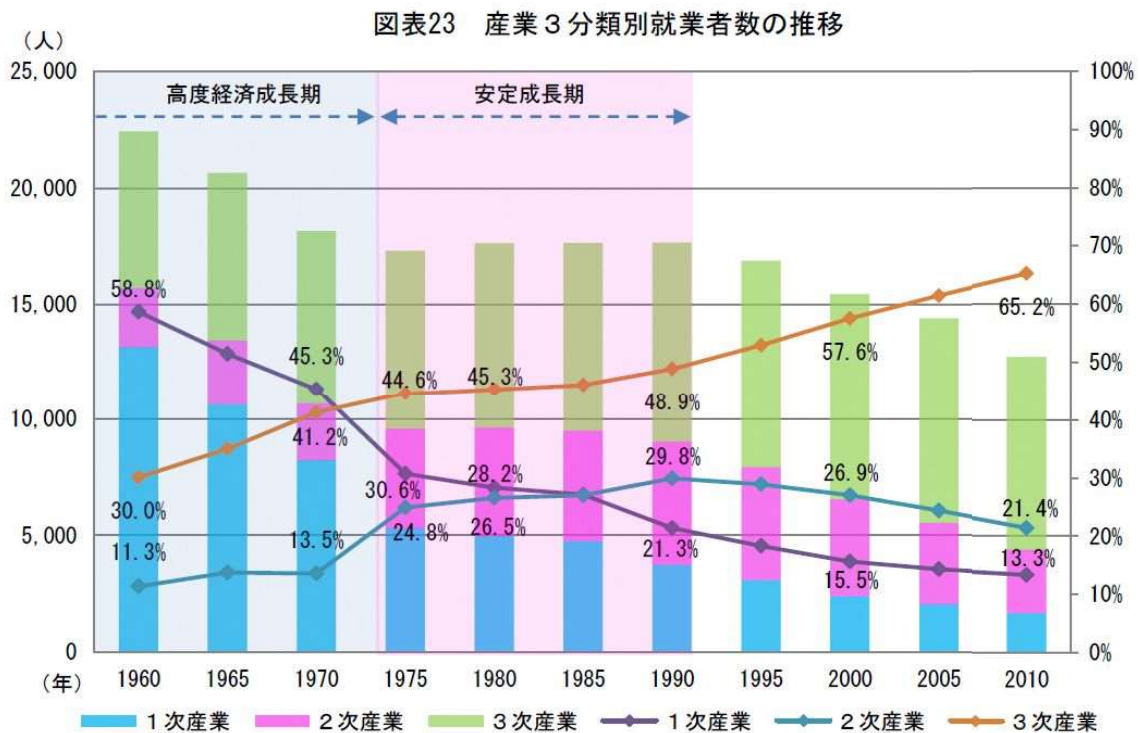
資料:国勢調査(H17, H27)

【主典:令和元年5月28日 国土交通省 九州地方整備局  
第一回熊本天草幹線道路(宇土~三角) 第一回説明資料】

## 6) 産業における人口状況

### 第一次産業から第三次産業へシフト

1960年～1970年までの間は第一次産業が多くを占めていたが、高度経済成長期とともに減少を続け、2010年には一次産業は13.3%まで減少している。第三次産業は、高度経済成長期から増加傾向にあり、2010年には65.2%と約3分の2を占め、上天草市の産業構造は、経済発展に伴い、第一次産業から第三次産業のへとシフトしているが現状も他地域に比べ割合は高い。



年	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010
第1次産業	13,180	10,638	8,234	5,299	4,970	4,767	3,757	3,076	2,397	2,048	1,697
第2次産業	2,528	2,816	2,447	4,291	4,667	4,749	5,269	4,863	4,154	3,495	2,727
第3次産業	6,725	7,199	7,480	7,714	7,992	8,137	8,639	8,945	8,895	8,860	8,305
計	22,433	20,653	18,161	17,304	17,629	17,653	17,665	16,884	15,446	14,403	12,729

【主典：ひと・まち・しごと創成本部 地方人口ビジョン】

## 7) 上天草市の産業の特色

### 「漁業」、「鉱業、採石業、砂利採取業」は就業者比率が高い

熊本県の就業者比率と比較した特化係数(※)では、特に「漁業」、「鉱業、採石業、砂利採取業」が高く、その他、特化係数が1.0を超えている産業は「運輸業、郵便業」、「複合サービス業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「建設業」で、これらの産業に特化していることがわかる。

※特化係数とは、「上天草市のY産業の就業者比率÷熊本県のY産業の就業者比率」で、この係数が1.0を超えると、その産業に特化している。

産業分類別就業者数及び特化係数の状況

産業分類	2015年									
	男(人)		特化係数	女(人)		計(人)	特化係数			
	順位		順位		順位		順位			
農業、林業	495	6	0.77	351	5	0.78	846	7	0.77	
(うち農業)	480		0.78	348		0.78	828		0.78	
漁業	559	5	11.17	153	10	8.42	712	9	10.47	
鉱業、採石業、砂利採取業	27	19	5.92	2	21	2.83	29	19	5.53	
建設業	969	2	1.21	139	12	0.94	1,108	5	1.17	
製造業	675	3	0.66	714	3	1.36	1,389	3	0.90	
電気・ガス・熱供給・水道業	19	20	0.48	10	19	1.62	29	19	0.63	
情報通信業	6	21	0.06	7	20	0.15	13	20	0.09	
運輸業、郵便業	1,061	1	2.65	142	11	2.02	1,203	4	2.57	
卸売業、小売業	670	4	0.77	889	2	0.91	1,559	2	0.85	
金融業、保険業	46	17	0.45	125	14	0.95	171	15	0.73	
不動産業、物品賃貸業	36	18	0.35	22	18	0.30	58	18	0.33	
学術研究、専門・技術サービス業	69	15	0.37	38	17	0.36	107	17	0.37	
宿泊業、飲食サービス業	264	11	1.09	659	4	1.57	923	6	1.39	
生活関連サービス業、娯楽業	186	12	1.00	247	7	0.90	433	11	0.94	
教育、学習支援業	126	14	0.51	227	8	0.74	353	13	0.64	
医療、福祉	421	8	0.90	1,430	1	0.96	1,851	1	0.94	
複合サービス業	177	13	1.77	112	15	1.94	289	14	1.83	
サービス業(他に分類されないもの)	353	9	0.90	186	9	0.71	539	10	0.82	
公務(他に分類されるものを除く)	289	10	0.74	137	13	0.96	426	12	0.80	
分類不能の産業	58	16	0.39	51	16	0.39	109	16	0.39	
計	6,506			5,641			12,147			

(赤表示は、男女合計の就業者数の特化係数が1.0を超えている業種)

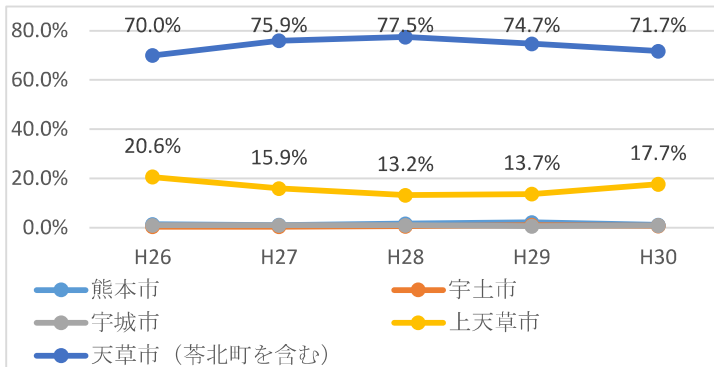
国勢調査2015年(総務省)より作成。特化係数は熊本県全体比較で算出。

【参考：ひと・まち・しごと創成本部 地方人口ビジョン】

### 天草地域の漁獲量は熊本県の漁獲量の約9割

天草地域は第一次産業の就業者割合が高く、熊本県の漁獲量の約9割を占め、水産業が盛んな地域である。「くるまえび」、「はも」、「このしろ」、「養殖まだい」等は大阪、東京の卸売市場において高い占有率を占めており、「はも」、「このしろ」は全国1位の漁獲量となっている。

熊本県内の漁獲量のシェア(H30)



熊本県内の漁獲量(H30)

(t)	H26	H27	H28	H29	H30
熊本市	278	227	286	401	221
宇土市	73	72	109	190	151
宇城市	208	206	179	127	164
上天草市	4,139	3,236	2,398	2,457	3,163
天草市(苓北町を含む)	14,039	15,444	14,122	13,409	12,787
熊本県	20,063	20,345	18,219	17,951	17,831

【参考：海面漁業生産統計調査(農林水産省)】



## 8) 観光動態

熊本県内宿泊客数は昨年度より増加している。

天草地域（天草市、上天草市、苓北町）の宿泊客数 690,870 人[うち日本人：68,2257 人外国人：8,613 人]（H30 年度熊本県観光統計）、対前年増減率+13.6%（うち日本人：+13.7% 外国人：3.9%）となっており、熊本県では、熊本市、阿蘇地域について第3位の年間宿泊客数を有している。これは天草の崎津集落を含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されたこと等により、前年より全体の宿泊客数が増加したためと思われる。

日本人・外国人別延べ宿泊客数[月別]（H30）

(人)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
日本人	38,457	39,314	61,577	67,310	74,602	48,275	51,751	84,346	57,376	54,590	64,599	40,060	682,257
外国人	194	793	733	895	669	314	1,180	1,130	323	1,006	746	630	8,613
計	38,651	40,107	62,310	68,205	75,271	48,589	52,931	85,476	57,699	55,596	65,345	40,690	690,870

【参考：平成 30 年度 熊本県観光統計表】

### さんばーるの売上、客単価は上昇、客数は一定

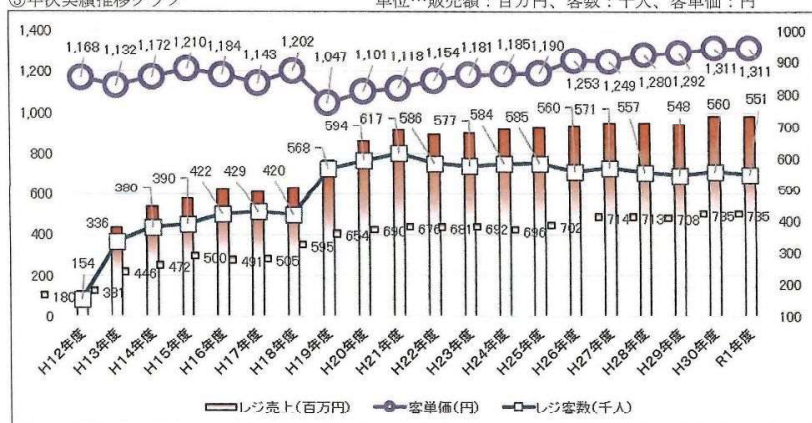
上天草物産館さんばーるは、宮津地区の観光資源の一つとなっており、売上、客単価は年々増加傾向で客数は一定数を確保している。月別では、連休や観光シーズンに多くの客数を確保している。また、冬季の12月などにも多くの客数を確保しており、観光シーズン以外でのイベント・施設間等の連携による宮津地区の観光客数増加にもつなげることができる。

さんばーるレジ客数[月別]（R1）

(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R1	49,403	52,564	41,961	41,277	48,531	43,754	47,941	44,419	51,730	38,922	43,349	47,378	277,490
H30	49,200	52,269	45,510	44,026	51,947	43,497	47,638	44,288	50,452	39,454	42,116	50,599	286,449
H29	49,108	53,057	42,912	43,776	48,931	40,420	44,303	43,622	51,457	37,579	41,563	51,767	278,204

③年次実績推移グラフ

単位…販売額：百万円、客数：千人、客単価：円



## (2) 熊本天草幹線道路整備を見据えた課題の整理

### 1) 熊本天草幹線道路概要

- ・ 熊本市と天草市本渡町（日本渡市）を結ぶ全長約 70km の間を計画
- ・ 熊本県の総合計画に掲げる、熊本都市圏や熊本空港と県内主要都市とを 90 分で結ぶ構想（90 分構想）に基づく。
- ・ 松島有料道路、三角大矢野道路（天城橋を含む）は開通済み
- ・ 宇城市三角町～上天草市大矢野町間については、道路計画の段階から PI（パブリック・インボルブメント）方式により整備方針の検討を行う。
- ・ 令和元年度大矢野道路を着手



【主典：熊本県 HP】

## 令和元年 熊本天草幹線道路 かわら版

### 大矢野道路 事業はじまる

熊本天草幹線道路の一部である「大矢野道路」に今年度から着手しました。本道路は昨年開通した「三角大矢野道路」に続く区間であり、上天草市の中心市街地である大矢野町の渋滞緩和や90分構想の実現、代替路の確保など、様々な効果が期待されます。

6月17日、19日、21日に事業説明会を開催し、9月から現地での測量作業を開始しました。今後は道路の設計を進め、事業進捗に合わせた説明会を開催していく予定です。

**令和元年度**

- ◆補助事業に新規採択
- ◆事業説明会の実施(6月17日,19日,21日)
- ◆現地測量(9月着手)、地質調査等
- ◆道路詳細設計 等

**令和2年度**

- ◆測量設計の推進
- ◆地質調査等の推進
- ◆道路計画(詳細ルート)説明会(予定)

**令和3年度以降**

- ◆用地交渉前の説明会
- ◆用地交渉・買収
- ◆工事着手

**その他の取組み**

平成30年5月20日供用開始  
L=3.7km

令和元年10月 熊本県天草市本渡町

熊本天草幹線道路の目的

- 1) 90分構想の実現  
地域間交流・連携強化、地域の産業や観光振興
- 2) 渋滞の緩和  
定時性の確保と交通安全性の向上
- 3) 代替路の確保  
緊急輸送道路機能の充実

【主典：熊本県 HP】

## 2) 熊本天草幹線道路整備の効果

国土交通省は、熊本天草幹線道路整備の効果として「広域ネットワークの形成（物流広域化の支援）」、「広域ネットワークの形成（観光振興の支援）」、「災害に強いネットワークの形成」、「交通混雑の緩和」、「交通安全性の向上」、「緊急医療活動の支援」をあげている。

- I. 広域ネットワークの形成（物流効率化の支援）
- II. 広域ネットワークの形成（観光振興の支援）
- III. 災害に強いネットワークの形成
- IV. 交通混雑の緩和
- V. 交通安全性の向上
- VI. 緊急医療活動の支援



## 3) 課題

### ①通過交通の増加

将来的に熊本都市圏から天草市まで熊本天草幹線道路が開通した場合、「II. 広域ネットワークの形成（観光振興の支援）」は高くなる。一方で、宮津地区は、前島地区や天草市への通過交通となってしまいう可能性が高い。そのため、観光地として前島、天草市との差別化が課題になっていく。

「II. 広域ネットワークの形成（観光振興の支援）」の向上



インターチェンジから天草市、前島地区へ直行への懸念



**観光地としての差別化**

### ②緊急車両動線の確保

熊本天草幹線道路が開通し、「VI. 緊急医療活動の支援」は向上する。一方で、観光客および観光車両が増加した場合、現在の国道 266 号線では消防署から国道 266 号線までの出動動線が観光としての動線と交わっており、緊急車両通過の妨げになる可能性が考えられる。

「VI. 緊急医療活動の支援」の向上



消防署から国道 266 号線までの出動の動線が問題



**観光動線と生活動線の検討**

### (3) 上位計画及び関連計画の整理

#### ① 上天草市第2次総合計画（平成26年3月）

上天草市第2次総合計画では、「人と海のふれあうまち～地域資源を活かした、新しいまちの上質な価値の創造～」と将来像に掲げている。また、まちづくりの基本目標として「子ども、若者、お年寄りが住みよい「活力」「誇り」「安心」に満ちたまちの実現」を目標としている。

**将来像**

**人と海のふれあうまち ～地域資源を活かした、新しいまちの上質な価値の創造～**

第2次総合計画における「まちの将来像」においては、「上天草市総合計画」で、これまで築いてきた「人と海のふれあうまち」を継承し、「海」と「人材・資源」を活かした自立・交流型の地域社会を進めるとともに、今までにない、新しいまちの価値の創造に向けて、様々な地域資源の可能性を十分に発揮した、質の高いまちづくりをめざします。

**まちづくりの基本目標**

**子ども、若者、お年寄りが住みよい「活力」「誇り」「安心」に満ちたまちの実現**

本市の将来のまちづくりを考える上で、急速に進む人口減少・高齢化は最も憂慮すべき課題であり、自立可能・持続可能な地域社会をつくるために、安定した人口（構造）を維持することを最重点に取り組むテーマとして、「活力」「誇り」「安心」を充実させることにより、市民が住み続けたい、新たな住民として住みたいまちの実現をめざします。

【主典：上天草市第2次総合計画】

宮津地区将来構想は、さんぱーるや天草四郎ミュージアムなどの観光施設が集積することから3つのまちづくり方針のうち、主に、「産業が活性化し成長するまち」の実現を目指す。また、上天草高校や大矢野総合スポーツ公園があることから「故郷の豊かさを守り、愛するまち」の実現を目指し、大矢野老人福祉センターがあることから「ふれあい・支えあうまち」の実現を目指す。

第2次総合計画前期基本計画【基本計画体系表：分野別（基本戦略）施策体系】

3つのまちづくり方針	まちづくりの戦略目標	戦略目標を実現する44の基本施策
<b>活力</b> 産業が活性化し成長するまち  未来に向けて輝く「産業」づくり 地域資源を活かした産業の創出・振興と雇用増加による定住の基盤づくり	<b>重点戦略</b> 1. 観光需要と観光消費を拡大する ～観光ブランドを発揮する「産業」づくり～	1. ターゲットを絞った上天草ブランドの開発 2. 観光の目的になるイベント開催・イベントの充実 3. 観光客の利便性の向上による「快適さ」の確保 4. 観光ガイドや観光イベントを実施する市民・観光客の育成 5. 消費を拡大する観光商品・サービスの開発 6. フラッシュの存在強化・商品の開発 7. スポーツ合宿や教育・研修旅行など団体旅行の誘客拡大
	<b>重点戦略</b> 2. 農林水産物の生産・加工・商品開発・販売を拡大する ～花のブランド商品・加工・商品開発による「産業」づくり～	8. 産地・産直と「産と直」を実現する「産品の生産体制拡大」 9. 生産者の思い・育成、経営力のある組織体制の強化 10. 農林水産物の6次産業化支援、加工業者との連携支援 11. ブランド産品・商品のPR拡大、産地・産直テーマの拡大 12. 加工商品の販路拡大の充実
	<b>重点戦略</b> 3. 地域の産業・企業を再生・育成により雇用を生む ～地域の産業・企業を多様な「個性」を創出する「産業」づくり～	13. 地域の産業・企業を活性化に向けた支援 14. 企業誘致の推進と創業者支援 15. 経営支援体制の充実
<b>誇り</b> ふるさとを誇るまち  未来に向けて輝く「人」づくり 未来を築く子どもの育成と愛郷心をもって活き活きと暮らす市民生活の実現	<b>重点戦略</b> 4. 地域ぐるみで子育て・子育てしやすいまちをつくる ～未来を築く元気な「人」づくり～	16. 地域の特色を活かした学校教育の充実 17. 地域・学校・家庭が連携し子育てを支援する教育環境の充実 18. 子育て支援施設・子育て支援サービスの充実 19. 地域サポートによる元気な子育て環境づくり
	<b>重点戦略</b> 5. 心豊かに高齢者がいきいきと暮らすまちをつくる ～年齢いさき元気な「人」づくり～	20. 高齢者に対する市民生活の向上 21. 身近な地域の学びと社会参加の場づくり 22. 高齢者・障がい者の活躍の場の拡大 23. 市民のコミュニティビジネスの育成
<b>安心</b> ふれあい・支えあうまち  未来に向けて輝く「地域」づくり 安心・快適な暮らしの構築と市民が誇れる美しいまちづくり	<b>重点戦略</b> 6. 多様な交流によりふるさとへの愛着を育み育てる ～文化・スポーツを核とした「人」づくり～	24. スポーツ活動を通じた市民交流の拡大 25. 財法の創成・文化に力を入れようとするまちづくり 26. 交流を通じた市民生活の向上
	<b>重点戦略</b> 7. 高齢社会に慣れた安心、便利な生活基盤をつくる ～安心・快適に暮らせる「地域」づくり～	27. 利便性の高い高齢者支援ネットワークの充実 28. 防犯環境の充実 29. 安心を基にした福祉環境の充実 30. 地域の防災・危機対応力の向上
	<b>重点戦略</b> 8. 自然志向・健康志向の都市住民の定住を促進する	31. 災害に強いまちづくり、市民の防災・防災意識の向上 32. ニーズに応じた居住環境の整備 33. 新たな定住者に対する支援体制の充実
	<b>重点戦略</b> 9. 自然環境を守り、美しい景観をつくる～美しい海と緑のまちづくり～	34. 自然を守り育てる環境づくり、景観保全の強化 35. 日常生活から見守る環境にやさしいまちづくり 36. 地球環境にやさしい資源・環境対策の推進

さんぱーる  
天草四郎ミュージアム

上天草高校

大矢野総合スポーツ公園

大矢野老人福祉センター

【主典：上天草市第2次総合計画】



### ③宮津地区総合開発計画（平成10年3月）

合併前の大矢野町においてさくていされた宮津地区総合開発計画では、上天草市役所大矢野庁舎周辺はタウンセンター、宮津地区は観光拠点の役割を担うサブタウンセンターとされている。

現在のさんばーる、宮津海遊公園、スパ・タラソ天草などの施設はその他を含む9項目基本方針にもとづき整備をされている。これらのうち花公園と施設間連絡通路を除いては施設整備はある程度実現したが個別の整備に留まり、連絡通路や遊歩道などの全体を繋ぐ機能が未整備であり、課題として残されている。そのため、**地区内の全体動線計画が必要**である。

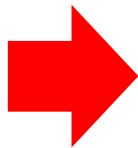


#### ○基本方針

総合開発計画では整備項目の基本方向として以下のように述べている。

1.観光市場の整備	⇒さんばーる
2.海洋療法温泉施設の整備	⇒スパ・タラソ天草
3.観光情報案内機能の整備	⇒さんばーる
4.イベント広場と緑地公園	⇒宮津海遊公園等
5.「花」と「愛」をテーマとした天草四郎公園の整備	⇒R5までに再整備
6.メモリアルホールの活用	⇒R5までにリニューアル
7.花公園	
8.海浜公園	⇒宮津海遊公園
9.その他（多目的施設、施設間連絡通路等）	

連絡通路や遊歩道などの  
全体をつなぐ機能が弱い



地区内の全体動線  
計画が必要



宮津地区総合開発計画

### 施設間連絡通路

これまで行ったワークショップや各種のヒアリングでは、本計画対象地について、メモリアルホールとグラウンド間の陸橋の必要性を説く声が多かった。連絡については地下同等の方法もあるが、コスト的にも陸橋の整備とすべきである。

また、メモリアルホールと本計画で提案した花公園をつなぐ通路としては吊り橋が考えられる。

こうした陸橋や吊り橋などの連絡路の整備がなされると、利用する観光客の歩行による回遊性が増し、各施設への立ち寄り率が高まるなどより大きな相乗効果が期待できる。諸条件との整合をはかりながら、実現に向けてことが望ましい。

- 陸橋や吊り橋の整備によって利用する観光客の回遊性が増
- 各施設への立ち寄り率が高まる
- 諸条件との整合をはかりながら実現

### 遊歩道・散策路等

遊歩道や散策路については、計画地全体の回遊性を上げて観光客の滞在時間をのばす働きがあるので、全体に統一されたイメージで整備することが重要となる。また、大矢野砥石や天草地方の焼き物は、地方の特産であり観光客への紹介の場や新しい活用法を新たに開拓してゆくこともその産業の振興につながると思われる。そこで、水産研究センターやイベント広場、海水浴場、花公園、天草四郎 愛と花の丘公園などの散策路や遊歩道は大矢野砥石や軸(ゆう)葉でポルトガル風に色をつけるなどした焼き物をタイルとして用いて整備することも考えられる。全体のイメージの統一性も保たれ、それに沿って観光客の回遊性向上と滞在時間延長が促進される。当然計画全体の収益性も高まる。

- 観光客の滞在時間をのばす
- 全体に統一されたイメージで整備
- 大矢野砥石や天草地方の焼き物を活用

【出典：宮津地区総合開発計画】







カントリーパーク花蒲邸  
スハ・タラソ天車

大矢野老人福祉センター  
大矢野陶芸館

人矢野農山荘広場公園  
農林水産物加工品開発  
研究センター

宮津海遊公園  
水産研究センター

(公財)  
くまもと里海づくり協会

上天草物産館さんばーる

天草広域連合北洲防署

上天草警察署

天草四郎公園

(仮) 宮津地区図書館

天草中野ミュージアム

大矢野総合スポーツ公園



宮津地区周辺航空写真

## (5) 宮津交差点の渋滞状況の整理

### ① 国道 266 号線からみた交通状況

国道 266 号線は、熊本市内から上天草市や天草市への観光及び上天草市民の主要道路となっている。その為、一日を通し交通量は上天草市内の中では多く、一日に 17600 台の車が通行している。

混雑度は 1.39 となっており、「ピーク時間帯はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性が高い状態。」とされている。また、旅行速度をみると混雑時、比混雑時ともに指定最高速度 (50km/h) より下回っており、日中は時間を問わず、多少の信号待ちや交通渋滞がおきていることが考えられる。さらに、長期連休などの観光シーズンや交通事故による渋滞時は通常の約三倍程度の交通量になるとされている。

一般国道 266 号線 交通量調査											
○交通量観測地点地名 上天草市大矢野町登立双原				○自動車類交通量 (上下合計)							
				・ 昼間 12 時間				・ 24 時間			
				小型車 12928 台				小型車 16146 台			
○観測日 2015 年 11 月 19 日 (木)				大型車 930 台				大型車 1454 台			
				計 13858 台				計 17600 台			
○時間帯別自動車類交通量 (台 / 時)											
・ 上り 時間帯別計											
7 時台	8 時台	9 時台	10 時台	11 時台	12 時台	13 時台	14 時台	15 時台	16 時台	17 時台	18 時台
493	510	558	642	582	504	510	495	525	598	720	704
・ 下り 時間帯別計											
7 時台	8 時台	9 時台	10 時台	11 時台	12 時台	13 時台	14 時台	15 時台	16 時台	17 時台	18 時台
648	619	581	562	538	459	539	598	680	660	657	476
○昼間ピーク比率 9.9%				○旅行速度							
				・ 混雑時		・ 昼間非混雑時		・ 昼間 12 時間平均旅行速度			
○混雑度 1.39				上り 32.8km/h		上り 28.7km/h		上り 30km/h			
				下り 22.8km/h		下り 24.5km/h		下り 23.9km/h			

【参考：国土交通省 平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調

### ② 施設来館数による渋滞状況

上天草物産館さんぱーの月次客数では、連休や観光シーズン、イベント時 (3 月 47,378 人、4 月 49,403 人、5 月 52,564 人、8 月 48,531 人、10 月 47,941 人、12 月 51,730 人) に多くの方が施設に来館されるため、駐車場が間に合わず、266 号線が渋滞を起こしている。

## (6) 土地利用方針及び法規制の整理

### ○都市計画の状況

都市計画は設定されていない

### ○自然公園法の状況

宮津地区の公園は設定されていない

### ○港湾法の状況

江樋戸港の区域内に宮津海遊公園は入っているため港湾区域として指定される。

### ○景観法[天草景観形成区域]

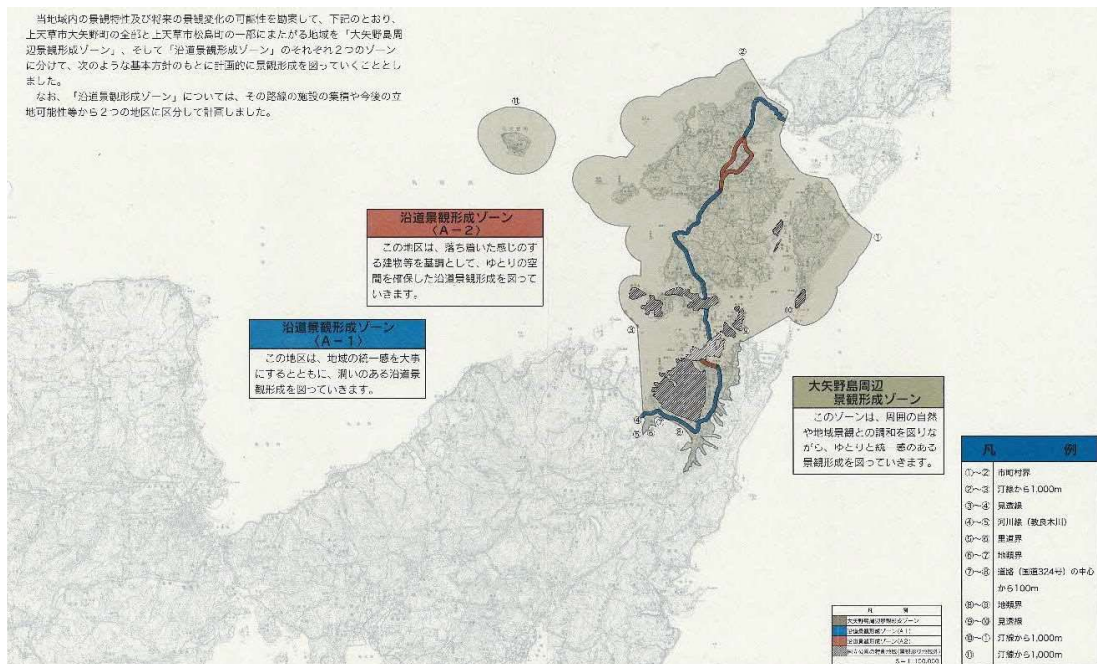
宮津地区は、上天草市景観計画に加え、「大矢野島周辺景観形成ゾーン」と「沿道景観形成ゾーン」に該当している。

#### ○大矢野島周辺景観形成ゾーン

周囲の自然や地域系かとの調和を図りながら、ゆとりと統一感のある景観形成を図っていきます。

#### ○沿道景観形成ゾーン (A-1)

地域の統一感を大事にするとともに、潤いのある沿道景観形成を図っていきます。



【出典：上天草市 HP】

## 既存施設等の利用状況などからみた課題の整理

### (1) 機能の課題

#### 観光目的以外の施設が混在している

宮津地区は、旧大矢野町のグラウンドがあったところをサブタウンセンターとして観光拠点として整備された。隣接するタウンセンターは既存住宅地と生活利便施設が集積する地区であったため、警察署や消防署、老人保健センターなどの観光目的以外の公共施設が観光施設に隣接して混在している。そのため、来訪する観光客にとっては観光気分を削がれる要因にもなっている。



#### 利用者数が頭打ち、または稼働率が低い施設

宮津地区の各施設は、リニューアルを繰り返しながら観光客を増やしているものもあり、全国的に人口減少、観光客の減少が進む状況においては比較的健闘している。今後も部分的なリニューアルによる一時的な利用者増は見込まれるがいずれ頭打ちとなることが考えられる。また、観光施設ではなくとも、農林水産物加工品開発研究センターや陶芸館のように稼働率が低い施設については、存続の是非についても検討する必要がある。



### 施設ごとに敷地内で完結しており、隣接敷地や公園との関係が希薄である

宮津地区の各施設は、古いものは昭和44年度建設の警察署から新しいものは平成23年度の農林水産加工品開発センターまで、40年以上の間に逐次建設されている。現在の開発の骨格となった平成10年の宮津総合開発計画からも20年以上が経過しており、所管課が異なる公共施設が共有できる全体計画を持たないまま個別の整備が行われてきた。そのため、施設ごとに敷地内で完結しており、隣接する敷地との関連性がなく、ばらばらの状態である。



### イベント時以外の公園の利用率が低い

宮津地区には、天草四郎公園、宮津海遊公園、大矢野農山村広場公園、カントリーパーク花海好、大矢野総合スポーツ公園の5つの公園があり、広大な面積を有している。このうち斜面地を散策するカントリーパーク花海好と単独で存在する大矢野総合スポーツ公園以外は、中心部の施設と施設の間であり、イベントを行うのに適しており、現にパールマラソンやえびリンピックなど多くの集客イベントを行っている。しかしながら、イベントの行われていない日は、施設との一体的利用が行いにくいこともあり、利用率が低くなっている。



## 周辺施設を含めた海辺のつながりが弱い

宮津地区の公共施設のうち、天草観光のシンボリック的存在である海に面するものは宮津海遊公園だけである。市有施設ではスパ・タラソ天草が離れた位置にあり、宮津海遊公園とつながっていない。また、県の水産研究センターは、ユニークなマダイの栽培漁業を行うくまもと里海づくり協会に隣接するが、敷地内は立ち入りができないため、宮津地区とのつながりは弱い。



## 効果的な観光案内ができていない

宮津地区は、天草地域の玄関口に位置するため、来訪者がまず立ち寄る観光拠点として、周辺観光エリアへの案内誘導が重要な役割を果たすが、現在の観光案内所は歩行者動線からも孤立しており、宮津地区内の回遊の視点からも効果的な案内ができていない。

一方で、国道 266 号線を挟んだ天草四郎公園に建設予定の新大矢野図書館は、観光も含めた新たな情報集積の拠点となる可能性もあることから、地区全体の視点からの案内誘導のあり方を整理する必要がある。



## (2) 動線の課題

**緊急車両動線、生活動線、観光動線の重複しており、特に緊急車両動線の確保は喫緊の問題である**

ばらばらの施設整備は、施設へアクセスするための動線についても個別に対応してきたため、目的の異なる施設の配置はそのまま、消防車の使用する緊急車両動線と、住民が日常で利用する生活動線、来訪した観光客が利用する観光動線が重複することになった。特に、平日と休日関係なく速やかに出動することが求められる消防署が、観光動線と重複していることは大きな問題である。

**建設予定の(仮)宮津地区図書館と、さんぱーるとが国道266号で分断されている**

パームツリーが連続する国道266号は、景観的には宮津地区を特徴づける要素であるが、土地利用上は宮津地区を大きく東西に分断し、宮津地区の一体的利用を妨げる要因にもなっている。

平成10年の宮津総合開発計画は、住民ワークショップや各種ヒアリングをもとに策定されているが、回遊性が増し、各施設への立ち寄り率が高まる相乗効果が期待できるとして陸橋や吊り橋の整備が計画されている。しかし実現はされず、回遊性向上は課題として残されている。



### (3) 景観形成における課題

#### 観光地としての景観のまとまりが弱い

大矢野町は、タウンセンターとして生活利便施設が多く立地し、観光地としての雰囲気は感じられないが、宮津地区に入ると、高く伸びたパームツリーがエキゾチックな雰囲気を醸し出している。しかしながら、沿道片側は天草四郎公園の緑と崖のダイナミックな景観が続くのに対し、サンパール側は平面駐車場が占め、自動車中心の沿道型商業施設の景観を呈している。

また、建物も、近年整備された前島の施設に比べると、高台に建つカテドラル風の天草四郎ミュージアム、鉄骨造でメタリックな屋根のさんぱーる、鉄骨でガレージのような消防署、鉄筋コンクリート造で陸屋根の老人福祉センターなど、デザインもばらばらで来訪者の期待感が高揚する景観とは言えない。





## 将来構想策定に向けた検討課題

現況と課題をもとに、宮津地区の将来構想について以下の検討を行っていく。

- 1. 現況と課題
- 2. 地区全体のあり方、テーマの設定
  - ①社会状況の変化への対応
  - ②市内観光拠点との差別化
- 3. 機能の再編や新規導入
  - ①観光の起爆剤としての図書館
  - ②福祉施と観光の融合
  - ③海とのつながりの強化
  - ④その他、新たなアクティビティ

第1回検討委員会

- 4. 目的に応じた動線の整備
  - 緊急車両動線の確保
  - 施設間の連携
  - 遊歩道や陸橋等、地区内の回遊動線の整備
- 5. ゾーニングと観光拠点機能の強化
  - ゾーニング
  - 機能の強化・更新
  - 公園・広場の有効活用
- 6. 地区の顔となる景観づくり
  - 景観形成の方針
- 7. 整備手法の検討
  - A 既存施設の活用
  - B 建替えの機会等を活用（ローリング）
  - C 新たな敷地の確保（埋め立て）

第2回検討委員会

- イメージパースの作成
- 7. イベント及び体験プログラム
- 8. 管理運営体制の構築
  - 官民協働及び民間活力導入

第3回検討委員会

(4) 既存施設等の利用状況などからみた課題の整理



観光目的以外の施設が混在している

警察署、消防署、老人福祉センター  
農林水産加工品開発研究センター

施設ごとに敷地内で完結しており、隣接敷地や公園との関係が希薄である

緊急車両動線、生活動線、観光動線の重複しており、特に緊急車両動線の確保は喫緊の問題である

赤：緊急車両動線、緑：生活動線、青：観光動線

観光地としての景観のまとまりが弱い

天草四郎ミュージアム：カテドラル風  
さんばー：S造、金属屋根  
老人福祉センター：RC造、陸屋根

建設予定の(仮)宮津地区図書館と、さんばーとが国道266号で分断されている

さんばーと大矢野農山村広場公園  
老人福祉センターと大矢野農山村広場公園

利用者が数が頭打ち、または稼働率が低い施設がある

スパ・タラン天草、カントリーパーク花満好  
農林水産加工品開発研究センター

観光案内所が孤立し、効果的な案内ができていない

イベント時以外の公園の利用率が低い

宮津海遊公園、大矢野農山村広場公園

周辺施設を含めた海辺のつながりが弱い

水産研究センター、里海づくり協会、すば・タラン天草

現状 (令和2年度)